

2024年4月1日

各位

会社名 株式会社 A D E K A
代表者名 代表取締役社長兼社長執行役員 城詰 秀尊
(コード: 4401、東証プライム市場)
問合せ先 執行役員 法務・広報部長 小八重 文武
(TEL. 03-4455-2803)

A D E K Aグループ 中期経営計画 (2024-2026 年度) を策定

～成長戦略としてサステナビリティを推進し、社会価値の向上と持続的な成長を目指す～

株式会社 A D E K A (代表取締役社長兼社長執行役員: 城詰 秀尊) は、2024 年度から 2026 年度の中期経営計画『ADX 2026』を策定し、本日よりスタートしました。

『ADX 2026』は、A D E K Aグループとしての 2030 年のありたい姿『ADEKA VISION 2030 ～持続可能な社会と豊かな暮らしに貢献する Innovative Company～』の実現に向けて、変革を続ける 3 年間で位置付け、成長戦略としてサステナビリティを推進し、社会価値の創出を通じた稼ぐ力の強化を図ります。また、環境貢献製品の拡大やカーボンニュートラルの実現に向けた GHG 排出量削減の推進に努め、より強靱な経営基盤のもと企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

中期経営計画 (2024-2026 年度) 『ADX 2026』 経営指標

財務指標 (2026 年度)	営業利益	530 億円 (売上高 5,000 億円)
	ROE	11.0%
	ROIC	10.5%
サステナビリティ ^{*1} 指標 (2026 年度)	環境貢献製品売上高	1,150 億円 (2019 年度比 2.5 倍)
	GHG 排出量	199 千 t-CO₂e^{*2} (2013 年度比 13%削減)
	女性管理職比率	6%以上 (単体)
設備投資額		750 億円 (3 カ年)
配当方針 (配当性向)		40%以上^{*3}

*1 A D E K Aグループ サステナビリティ優先課題に関する指標

*2 CO₂ equivalent (CO₂換算値)。様々な温室効果ガスの量を CO₂相当量に換算して統一的に表す単位

*3 適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする

〈次ページに続く〉

1. 2030年のありたい姿について（設定：2021年4月）



2030年は、SDGs（持続可能な開発目標）の解決を目指す年です。ADEKAグループは、SDGsの達成に向けて、幅広い事業を世界中で展開し革新的な技術で世界をリードすることで、持続可能な社会と人々の豊かなくらしに貢献する企業でありたいと考えています。

2. 中期経営計画：『ADX 2026』について

(1) 名称

『 **ADX 2026** 』（読み方：アデックス にせんにじゅうろく）

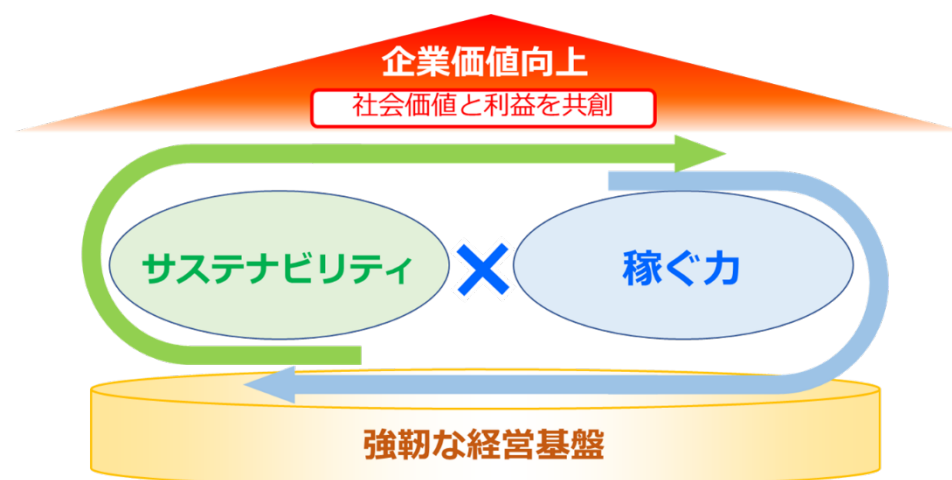
「ADX」は、持続的な成長に向けたADEKAの変革する意志「ADEKA Transformation」を表しています。

2030年のありたい姿である『ADEKA VISION 2030 ～持続可能な社会と豊かなくらしに貢献する *Innovative Company*～』の実現に向けて、さらなる変革を実行する3年間と位置付けています。

(2) 基本方針

サステナビリティの推進により、社会価値の向上と持続的な成長を実現する。

～稼ぐ力・サステナビリティ・強靱な経営基盤～



変化に柔軟に対応できる強靱な経営基盤を構築し、環境貢献製品の拡大を成長機会として稼ぐ力を強化し持続的な成長を実現します。

(3) 基本戦略

社会価値と利益の共創による企業価値のさらなる向上を目指し、「稼ぐ力の強化、高収益構造への転換」「環境貢献製品の拡大、および事業構造の変革による GHG 削減」「経営基盤の強靱化」を進めます。

◆ **稼ぐ力の強化、高収益構造への転換**

収益の柱である情報・電子化学品に積極的に経営資源を投下していく一方、将来を見据えた事業の再構築を進めます。各事業の成長戦略を遂行し収益性向上を図るとともに、将来の成長の柱となる新製品の拡大や新規事業を推進します。また資本効率性の向上に向けた施策を実行し、当社の稼ぐ力の向上を図ります。稼ぐ力の強化により、規模拡大から利益を重視した事業成長を図ります。

◆ **環境貢献製品の拡大、および事業構造の変革による GHG 削減**

環境貢献製品の拡大と創出を進め、社会課題解決の機会を取り込んだ成長戦略を遂行します。また、カーボンニュートラルの実現に向けて各事業で GHG 排出量削減に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）を推進し、多様な人財活躍の機会を創出するとともに、人権デューデリジェンスの実行により、サプライチェーン全体で人権を尊重します。

◆ **経営基盤の強靱化**

各事業における戦略製品群の安定生産に向けて、重要原料を把握・管理し、外部環境が激しく変化した際にも事業継続できる強靱なサプライチェーンを構築します。人的資本活用の基盤を整備し、各事業の成長ステージにあわせた人財の配置・育成を推進します。デジタル技術を取り入れ、継続的に業務改革を進めていきます。

- 中期経営計画『ADX 2026』の詳細につきましては、2023 年度決算説明会（資料：2024 年 5 月 29 日に当社ウェブサイト掲載予定）の際にご説明いたします。

当社ウェブサイト：<https://www.adeka.co.jp/>



以上

■ 本リリースについてのお問い合わせ先

株式会社 A D E K A 法務・広報部 総務・広報グループ

Tel:03-4455-2803/E-mail: somu@adeka.co.jp

ADX 2026

さらなる変革を
実行する3年間

ADEKA VISION 2030
～持続可能な社会と豊かな暮らしに貢献する
Innovative Company～

- ADEKA VISION 2030の実現に向けたセカンドステージ
- 利益と効率性に重点を置き、稼ぐ力を高める3年間
- 成長戦略としてサステナビリティを推進し、
更なる変革を実行する3年間

バックキャスト

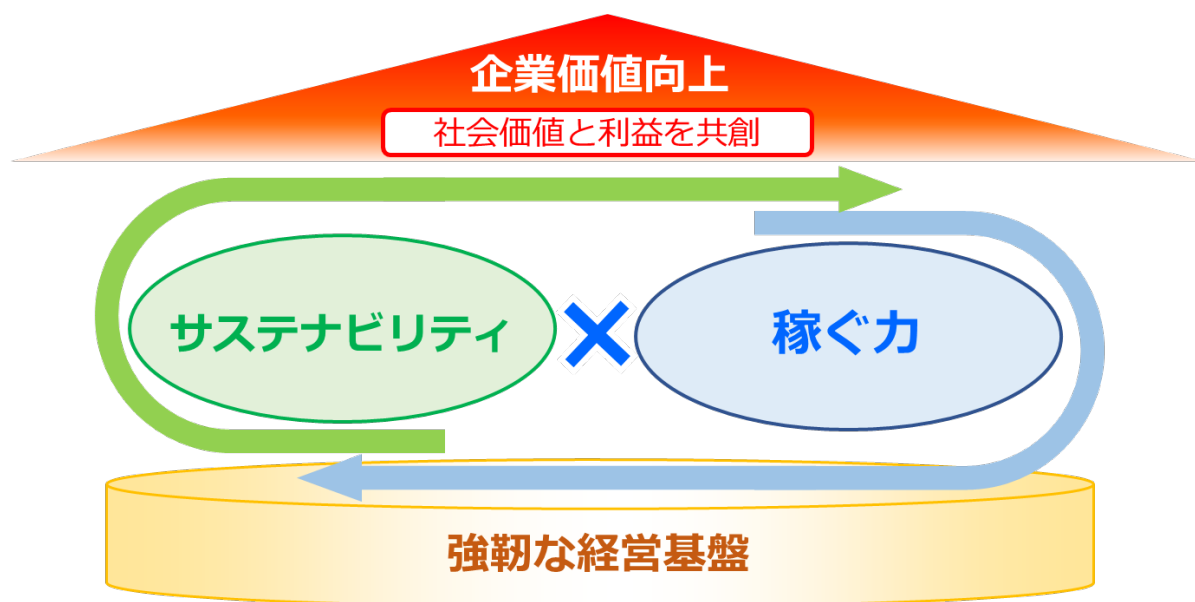
ADX 2023

社会価値 + 経済価値

ADX 2026

成長戦略として
サステナビリティ推進

サステナビリティの推進により、 社会価値の向上と持続的な成長を実現する ～稼ぐ力・サステナビリティ・強靱な経営基盤～



- ・ **稼ぐ力**を強化し、利益を重視した持続的な成長を図る。
- ・ **サステナビリティ**に向けた取り組みを推進し、社会課題解決の機会を取り込んだ成長戦略を遂行する。
- ・ **経営基盤**を**強靱化**し、不確実性の高い環境において機動的に対応する。

財務指標 (2026年度)	営業利益	530億円 (売上高5,000億円)
	ROE	11.0%
	ROIC	10.5%
サステナビリティ ^{*1} 指標 (2026年度)	環境貢献製品売上高	1,150億円 (2019年度比 2.5倍)
	GHG排出量	199千t-CO ₂ e (2013年度比 13%削減) ^{*2}
	女性管理職比率	6%以上 (単体)
設備投資額		750億円 (3カ年)
配当方針 (配当性向)		40%以上 ^{*3}

*1 ADEKAグループサステナビリティ優先課題に関する指標

*2 CO₂ equivalent (CO₂換算値)。様々な温室効果ガスの量をCO₂相当量に換算して統一的に表す単位

*3 適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする

基本戦略 1

稼ぐ力の強化、
高収益構造への転換

- 情報・電子材料の拡大、低収益事業の再構築
- 戦略製品*1の拡大
- 新製品*2の拡大、新規事業の推進
- 資本効率性の向上

基本戦略 2

環境貢献製品の拡大、
事業構造変革によるGHG削減

- 環境貢献製品の拡大と創出
- カーボンニュートラルに向けたGHG*3 排出量削減
- サステナビリティ優先課題の取組み

基本戦略 3

経営基盤の強靱化

- サプライチェーンの強靱化
- 人的資本の向上
- DX推進

*1 戦略製品：成長エンジンとして拡大できる、営業利益・売上高でインパクトのある25製品群

*2 新製品：単年ではなく販売期間や収益基準など一定の基準に基づいて設定

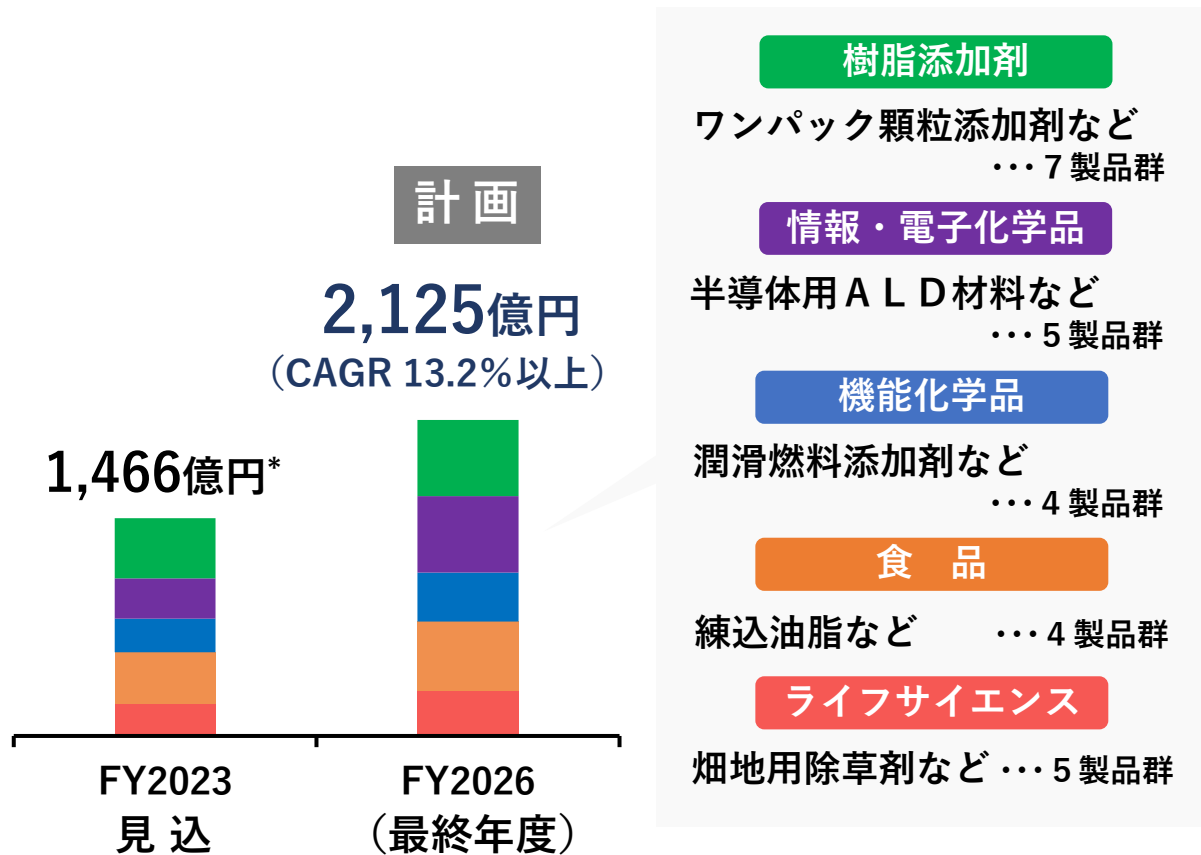
*3 GHG（Greenhouse gas）：温室効果ガス

セグメント別 業績目標

(単位：億円)	FY2026 計画			(ご参考) FY2023 予想		
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率
全社トータル	5,000	530	10.6%	4,100	345	8.4%
化学品	2,763	364	13.2%	2,120	236	11.1%
樹脂添加剤	1,332	109	8.2%	1,020	80	7.8%
情報・電子化学品	626	153	24.4%	400	95	23.8%
機能化学品	805	102	12.7%	700	61	8.7%
食品	928	62	6.7%	860	35	4.1%
ライフサイエンス	1,200	97	8.1%	1,040	61	5.9%
その他	106	5	4.7%	80	13	16.3%

* 金額は億円未満を切り捨てて表記

戦略製品 売上高 (25製品群)

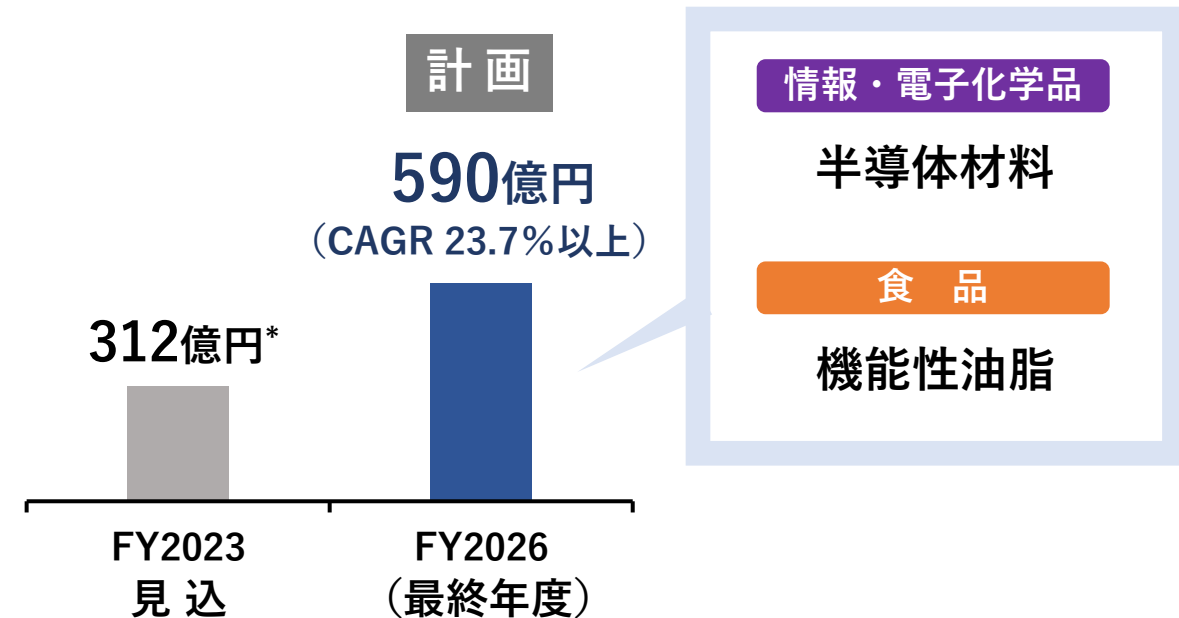


* FY2023見込は、戦略製品、新製品ともに製品見直しを適用後の数値を記載

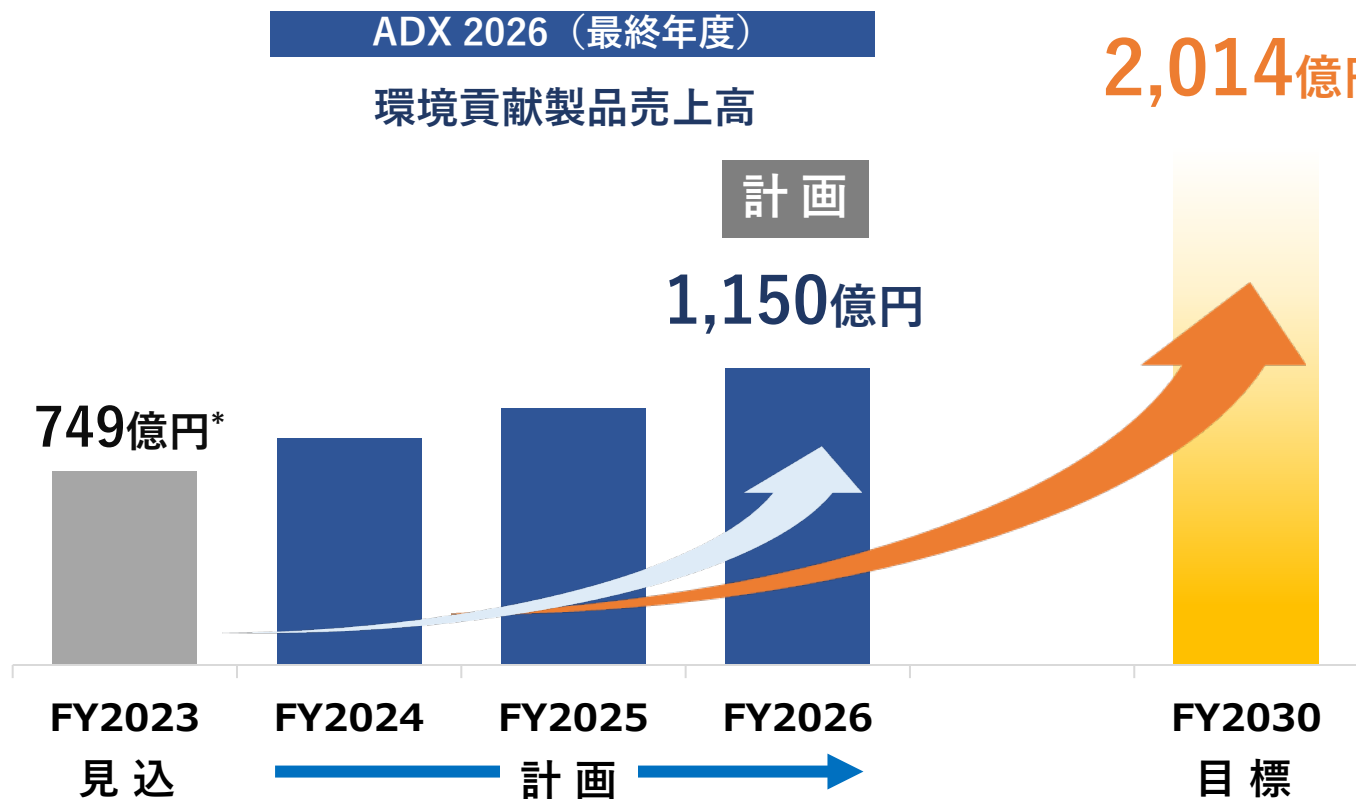
* 金額は億円未満を切り捨てて表記

新製品 売上高

特に、
情報・電子化学品と食品で大きく伸ばす計画



環境貢献製品の提供により社会課題解決に貢献し、
その拡大により事業成長とサステナビリティを実現する



* FY2023見込は、環境貢献製品の見直し（追加）を適用後の数値を記載
* 金額は億円未満を切り捨てて表記

『ADX 2026』環境貢献製品

- 脱重金属用安定剤
- 自動車部材用核剤
- イントメッセント系難燃剤
- リサイクル樹脂用添加剤 **NEW** 樹脂添加剤
- UV硬化材料
- 回路形成用リサイクル材料 情報・電子
- 半導体用ALD材料 **NEW**
- 半導体周辺材料 **NEW**
- 水系塗料材料
- 接着材料
- 摩擦低減潤滑材料
- SOx低減対応材料
- RSPO等認定製品
- 食品ロス対応製品 食品
- プラントベースフード製品
- 水稻用箱処理剤 **NEW** ライフサイエンス
- 電池材料 その他

ロードマップ

オールA D E K Aでアイデアを結集し、

2050年：カーボンニュートラルを目指す

2030年：2013年度比46%削減 (Scope 1+2)

GHG排出量

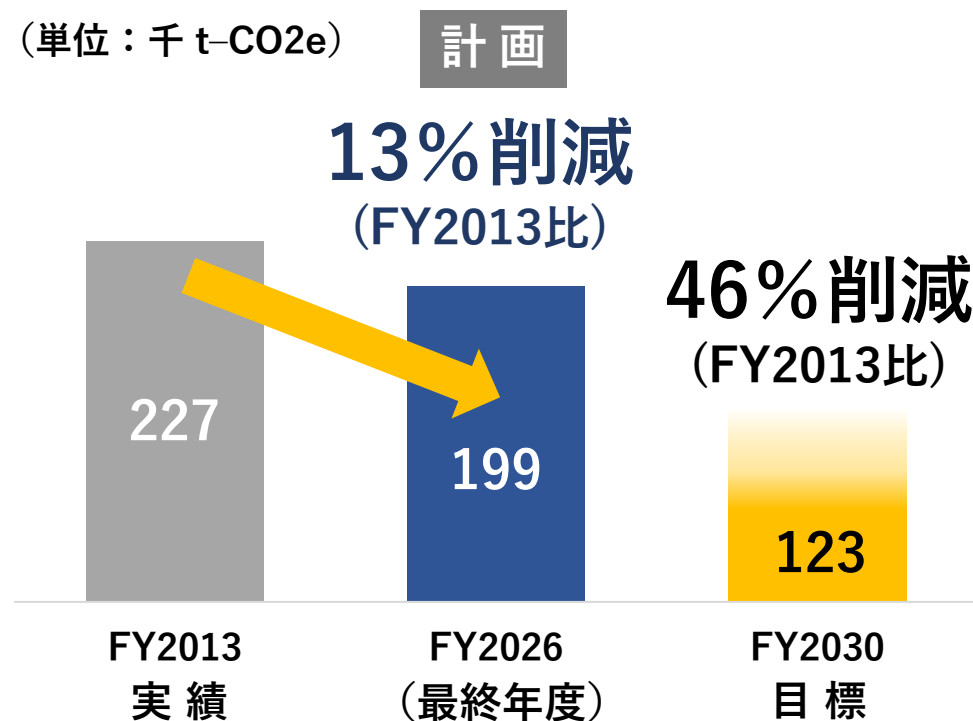
ADX 2026 (最終年度)

計画

199千t-CO₂e
(2013年度比 13%削減)

(単位：千 t-CO₂e)

計画



		投資金額
総額（3カ年）		750
工場投資	樹脂添加剤	62
	情報・電子化学品	158
	機能化学品	44
	食品	101
	ライフサイエンス	42
	その他	50
研究投資*1		197
共通・その他 (一般、販売、システム他)		92



・久喜の新研究棟建設費用、
・設備の維持更新費用を含む

情報・電子化学品分野に
積極的に経営資源を投じる計画

先端半導体向け材料

- ・ DRAM向け新規材料
- ・ ロジック半導体向け材料等

*1 久喜地区開発研究所の新研究棟建設費用（約100億円）を含む

*2 金額は億円未満を切り捨てて表記

『ADX 2026』配当方針

配当性向 **40%以上** 維持

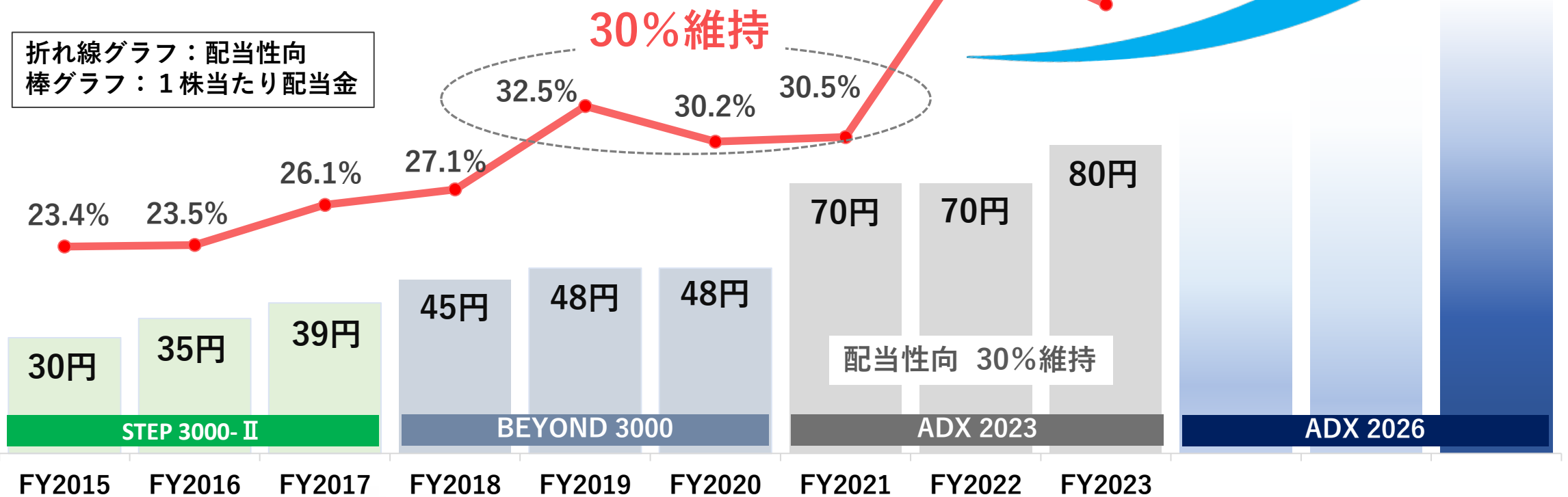
適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする

折れ線グラフ：配当性向
棒グラフ：1株当たり配当金

40%超の配当水準

FY2026

30%維持



**中期経営計画『ADX 2026』の詳細につきましては、
2023年度決算説明会（資料HP掲載：2024年5月29日予定）
の際にご説明いたします。**

この資料に記載されている業績予想、事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の結果は今後生ずる様々な要因によって、予想、計画と異なる場合があります。